

令和5年度 第4回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月1日（木） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井弘美子、川嶋 正幸、中川 智博  
清水 裕人、紙上 理恵、山岸 絵里、森 聖子
- 4 欠席委員 中川 勝夫、高柳 理子
- 5 オブザーバー 大野木 龍太郎（静岡大学） 山口 朋章（高台協働センター）
- 6 学 校 山内登志弘（校長）、小嶋 澄華（教頭）、中村 朝実（CSディレクター）  
太田 礎子（教務主任）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 中村 朝実

10 議長を選出

司会から、議長を選出について意見を求めたところ、岩井会長が本日の議長を務めることを申し出、全員異議無くこれを承認した。

11 協議事項

（1）学校関係者評価

- ①本年度の教育活動の説明
- ②学校評価を元にした分析結果と改善案についての説明

（2）来年度の学校経営の基本方針

（3）学校運営協議会の自己評価

（4）夢育やらまいか（CS加算分）報告

12 会議記録

司会の小嶋教頭から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校関係者評価

- ①本年度の教育活動の説明
- ②学校評価を元にした分析結果と改善案についての説明

議長の指示により太田教務主任より本年度の教育活動の説明と、学校評価を元にした分析結果と改善案についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

・チャレンジする場面を運動面以外に広げて行きたいのは、運動が苦手な子もいるのでありがたい。CSボランティアで子供たちが参加したらスタンプがもらえて貯まるものがあるといい。運動のように数値化できないものを評価できると良い。

自己肯定感が低いことについて、自分の良さに気付く力は大事。小学生のうちから長所に気付くことは素晴らしいと分かると良い。気付けないと就職活動などでつまずき、自分は必要とされていないのでは…となってしまう。

面談は担任の先生以外ともできると良い。この先生なら言えるとかあるかも。（森委員）

・自己肯定感が低くても友達の良さは分かるから、みんな謙虚で優しいのだろう。人にも優しく、

自分にも優しくという、自分を守る優しさも持っていいんだよと伝えられると良い。(紙上委員)

・相手に対しての前に、一番は自分を大切にしていける。それがないと他の人に与えられない。自分を愛することを学校でも大事にできると良い。失敗しても反省を書かせる前に、良かった点を受け入れて、それから反省すると良い。反省だけでは自分は駄目だと感じてしまう。自分が満ち足りていると優しさもあふれる。自分を愛する気持ちにつながる。自分を大事にしていけばいじめもなくなっていく、そんな教育ができると良い。(山岸委員)

・「やさしさ」について、音楽会で子供たちも担任も校長先生も感涙していた。それを見て私も泣いた。良いものを派生させた。6年生がしっかりしていると、下級生が引っ張られる。「やさしさ」は成功したと感じた。全体の流れで子供たちがレベルアップしていると思う。

自己肯定感があることと勝負に勝てることは違う。今は指導が変わって寄り添うことになっている。(中川委員)

・子供の様子についてと先生の評価がごっちゃになっていると感じる。先生達はどれくらいできているか？どういう言葉を使っているか？突き合わせていく必要がある。先生は1人1人の子の良さを限りなく見つけようとして、子供たちに返しているか。子どもができているかより、先生ができているか。先生の自己評価が必要かもしれない。⑭⑮の児童評価がないのはおかしい。子供たちからの声がコミスクを育てていく。

「困ったことがあったら誰に相談しますか？」具体的にどの先生か、地域の人か。知っておかなければいけない項目なので、次年度入れてほしい。(大野木さん)

・落ちこぼれと変に濁点を押される、できない子1人か2人の子達にも日を差してあげたい。学校って何の為にあるのか。学校に来られない子はどこへ行けば良いのか。受け皿がない。学校って勉強だけすれば良いのか。どうすれば来られるか、生きる術を教え、大人もいろいろな人がいると分かってくれれば良い。いろいろな人がいた方がそういう意見もあるんだと考えてくれたら良いのか。

保護者の方が点数が高いのは、子供たちは謙虚なのか。自分はできていないと思っている子に手は差し伸べられているのか。(川嶋委員)

・良い子なのか、教員にとって良い子なのか。教員にとって悪い子も何か決めたことを一生懸命できる場があるか。グレーゾーンの子は特質したことをものすごくやれたりする。(中川委員)

・自由の中にある決まり事、ルールがあることを知ってもらいたい。(川嶋委員)

・長期休みの課題が前は必ず一つはチャレンジだったが、自由になったらやらない。粘り強く頑張る→課題をやる！にするのも、苦渋の選択でやると良いものができたりして良いのでは。思いがけず褒められるとすごく嬉しいもの。(森委員)

・その時々で認め、褒める。大人が心を育てて、子供の心が満たされる機会が増えると良い。

認める→積み上げていく→自己肯定感が上がる→夢が広がる。(岩井会長)

・コロナが明けたので学校はもっと地域を頼って良い。自分の居場所がなかった子が地域のおじいちゃんに会って学校に行けるようになったり、久しぶりに来た子がやせてあざがあった事に気付いてあげられたり、地域が子供を気に掛けたことで助けることが出来た事例もある。地域の力が必要になってきていると感じる。(山口さん)

・①で子供たちと教員との間に温度差がある。そう思わない子に寄り添っていく必要があると感じる。言えないでいる子もいるかもしれないので、気付いてあげた方が良い。(紙上委員)

→生徒指導でとっているアンケート(名前あり)があるのでそちらで分かる。(太田教務主任)

- ・結果を傾向分析してみると良い。学年別で出し、いじめ報告件数と二軸で考えるとデータが分析できるかも。(中川委員)
- ・どの学校でも同じレベルでアンケートがとれると良い。学校によって先生によっても差があるのは困る。(森委員)

## (2) 来年度の学校経営の基本方針

校長より来年度の学校経営の基本方針について説明があった。

- ・「やさしさ」の言葉が定着してきていると感じる(岩井会長)

## (3) 学校運営協議会の自己評価

議長より学校運営協議会の自己評価について意見を求めたところ、委員からは以下の発言があった。

- ・来年度も「やさしさ」がキーワードになるので、自分へのやさしさ、いたわる事を意識化してほしい。親もできていないかもしれない。そこができれば人にやさしくできていく。家庭でも学校でも自分をやさしくするのが基本となる仕組み作りをしてほしい。(山岸委員)
- ・人間的土台があつてこそ、スポーツも結果が出る。上手くいかない自分も受け止めていく。自分へのやさしさで人間形成、人間の根っこができる。(中川委員)

→来年度は子供たちの土台、根っことなる自分へのやさしさについて具体的にしていきたい。(岩井会長)

## (4) 夢育やらまいか(CS加算分)報告

教頭より、夢育やらまいか(CS加算分)について報告があり、全員異議無く、承認された。

## その他報告事項等

学校支援CDから

- ① 11～1月の城北小サポーター活動実施報告
- ② 「コミスク便り(③④号)」発行について